

『日に新たに』
令和8年度 校長室便り
(5月8日) (第2号)



新しい出会いに感謝

ゴールデンウィーク前にお世話になった方々に転勤の挨拶状を出してほっと一息。ここまで自分が生活してこられたのも多くの方々のおかげだと改めて感謝したところです。また、転勤した先でも素敵な生徒たちや教育熱心な先生方と出会い、元気をもらっています。史跡めぐりを通して、きつい中でもお互いに励まし合い親睦を深め合っている生徒の姿を見て、実施できて本当によかったと思っています。

「人が成長するには、本を読むか、人の話を聞か、自分で体験するしかない」という言葉を聞いたことがあります。人とのお出会いは、人に大きな影響を与えます。出会えた奇跡に感謝しつつ、切磋琢磨しながら成長できるといいですね。

「君は君 我は我なり されど仲良き」 武者小路実篤



「史跡めぐり(一日遠足)」

5月1日(金)昨夜の雨が嘘のように晴れ上がり、絶好の行楽日和の中「第43回史跡めぐり(一日遠足)」が実施されました。

まず垂水市体育館で、史談会の瀬角様に垂水市の地理や歴史について詳しく説明していただきました。9時に出発し約7.5キロを歩き、途中俣江観音、垂水海軍航空自衛隊石碑、宮迫神社、末田浅一顕彰碑等を史談会の方々に解説していただき、郷土に対する認識を深めることができました。私も初めて聞く話ばかりで、大変興味深かったです。体育館に帰ってきてからは、学年ごとのレクレーションや体育祭の種目の練習等で汗を流し、お互いの親睦を深めている様子でした。1年生からは「歩きながら多くの人と話をすることができてよかったです」という感想が聞けました。

史談会の皆様、ご協力ありがとうございました。

「自分を変える 委員長に立候補」

垂水高1年 米田 雄惺

気づけばもう高校生。小学校では表舞台に出ず、中学校では遊んでいるだけの日常だった。何も成し遂げることはできなかった。

そのせいで特技もなく、将来の夢も決まっていなかった。このままでいいのだろうか、今さらのように危機感がやってくる。

今年こそは何かを成し遂げて自分に大きな自信をつくりたい。そう思い、学級委員長に思い切って立候補した。こんな重役、自分には経験もないし、できる自信もなかったが今しかないと思った。

この自分の行動はいつか絶対に役に立つだろう。そして自分の人生を変える第一歩になるだろうと思った。

この1年だけ頑張るのではなく、次の2年生でも3年生でも、必ず何かに挑戦しようと思った。

これから自分がどう変わり、どう動くのか楽しみだ。(垂水市)

5月4日(月)付 南日本新聞「ひろば」より

「校外進路体験学習」

4月21日(火)2・3年生対象の「校外進路体験学習」を実施しました。2・3年生が「学校見学コース」と「企業見学コース」に希望で分かれて貸し切りバス2台に分乗し、8時40分には学校を出発しました。午前中の「企業見学」が垂水市内だったので、私も後から参加させていただきました。



最初に株式会社財宝(垂水第一工場)を訪問し、おなじみの財宝温泉水が商品として加工される工程を見学させていただきました。垂水高校OBの三森生産1部部長の丁寧な説明と22時間体制で1日に17万本生産されるオートメーション化に、生徒は圧倒された様子でした。製造後2・3日かけて検査をした後に出荷するという徹底ぶりに驚きました。



2社目は、鹿児島きもつき農業協同組合垂水支所を訪問し、同じく垂高OBの濱田支所長に事業の説明と施設案内をしていただきました。JAきもつきは、鹿屋市・垂水市・肝属郡の2市4町を拠点し、地域農業の発展と農家の生活支援を行っており、仕事内容は、肥料や飼料の供給(購買)、農畜産物の販売、金融・保険事業、営農事業等、多岐にわたっていることがわかりました。「地域の人々に貢献しているので働きがいがありますよ」という濱田支所長の言葉が心に残りました。

何事も自分の目で確かめることが何より大切だと改めて実感した見学になりました。

3年「学年朝礼」

4月27日(月)学年朝礼が行われ、3年生に参加しました。

まず、蓮香教頭先生が「ゆっくりと急げ」、ステイブ・ジョブズ氏の「ハングリーであれ、愚か者であれ」、稲盛和夫氏の「人生はドラマ、主人公になれ」という言葉を紹介されながら、自分の進路実現に向けて焦らず着実に、そして主体的に取り組んでいこうという話がありました。次に学年主任の黒葛川先生からも、5月には面接指導の先生方をそれぞれ割り当てるため、自ら計画的に面接の準備を進めていこうという話がありました。何事も早く始めるに越したことはありませんね。「成功した人は成功するまで続けた人」です。諦めず粘り強く取り組んでいきましょうね。



「第六垂水丸遭難者慰霊之碑」



史跡めぐりで瀬角様から説明がありました「第六垂水丸遭難者慰霊之碑」を5月3日訪ねてみました。垂水港の片隅にありました。

1944年(昭和19年)2月6日9時50分、垂水港を出港した定期旅客船の第六垂水丸(122総トン)は、港の約200m沖の棧橋付近で方向転換する際にバランスを崩して転覆沈没したそうです。碑には、466名の殉難者と書いてありましたが、定員340名に対し700名超が乗っていたそうです。忘れてはならない史実だと思いました。